

宮城県富谷高等学校

志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☐ もとめる ・ ☒ はたす
活動名	生徒会出前授業(小学生向け科学教室)
教科・領域等	特別活動(生徒会活動)
活動学年等	全学年
ねらい	○地域の特産物(ブルーベリー)を小学生向けに教材化することを通して、身近に存在する事物への科学的探究心や思考力を引き出す。さらに、活動を通じて自己と向き合い、地域社会に貢献しようとする態度や人間性を高める。 ○地域の特産物を教育に取り入れることで、地域の活性化の一助とする。

【実践内容】

〔志教育の視点〕

異なる年代とのかかわりを通じて他者の心を理解できる人間性を養うとともに、他者との適切なコミュニケーションをとる能力を高める。また、地域での活動を通じて自分の役割を果たすことの重要性を気づかせ、地域社会の形成者としての自覚を持たせる。

〔活動内容〕

富谷市立富谷小学校から依頼を受けて、富谷市の特産物であるブルーベリーを用いた科学教室を実施した。生徒会執行部の有志生徒14名が参加した。この取組は2年目を迎え、昨年度より多くの生徒が参加した。

1 地域特産物の教材化、授業づくりについて

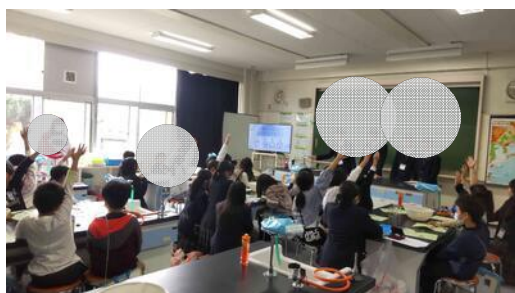
地域特産物であるブルーベリーを教材化するために、ブルーベリーの生理や栽培方法だけでなく、富谷市の特産物振興の現状にも着目して知見を深めた。それらに基づき、小学生向けの授業づくりに取り組んだ。科学教室の内容として、ブルーベリーに関するクイズと果汁の色変化を観察する実験を企画した。小学生の興味を引き出すための工夫や、科学の面白さをどのように伝えるかの工夫を随所に凝らした。

2 高校生による小学生向け科学教室について

科学教室は小学校3年生の総合的な学習の時間の一環として、全3クラスを対象に実施した。最初に高校生が黒板前に並び、準備していたスライドを利用してブルーベリーに関するクイズを行った。クイズで児童の興味・関心を引き出した後、高校生が各実験台の児童の輪に入り実験を始めた。先生役を担うことで、伝えることや教えることが喜びと変わっていった。

3 活動を終えて

本活動後、小学生から心のこもったお手紙が届けられた。参加生徒からは、「来年も是非参加したい」、「他にも地域に貢献できる活動をしたい」という声があがり、自分達の活動が地域貢献につながったことを実感していた。



志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☒ もとめる ・ ☒ はたす
------------	---

活動名	“届けよう！服のチカラ” プロジェクト(子ども服回収活動)(難民支援)
教科・領域等	特別活動(委員会活動)
活動学年等	全学年
ねらい	○世界の諸課題(SDGs)についての紹介活動を通して、つながりを尊重する態度を養う。 ○校内外で活動を広め、子ども服を回収する活動を通して、他者と協働する態度を養う。

【実践内容】

〔志教育の視点〕

世界の諸課題(SDGs)に主体的に関わり協働作業をすることで、自分の役割を理解し、地球の一員、人類の一員としてその責任を果たす。

〔活動内容〕

1 難民について知ろう

- ・ ESD(※)講演会を開催し、世界の難民の約半数が子どもであることを知る。
- ・ パワーポイントでのプレゼンテーションや体験活動を通して、服の持つチカラ(つながり)を理解する。
- ・ 遠く離れた外国の問題でも、身近に貢献できる活動があることを知る。

(※)ESD…Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」のこと

2 この活動をひろめよう

- ・ この活動を通して伝えたいメッセージを各自で考え、文化祭などの場で多くの人に伝える。
- ・ 近隣の小学校と連携して、地域の人々に活動を広め、子ども服を回収する。

※小学生と一緒にポスターを作成し、難民支援に協力しようという想いを共有する。感染症等拡大防止のため、今年度も実施できませんでした。

3 集めた服を送ろう

- ・ 地域から、校内外から集まった子ども服を仕分けし、丁寧にたたんで梱包し、想いとともて郵送する。



志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☐ もとめる ・ ☒ はたす
------------	--

活動名	「とみやわくわく子どもミーティング」
教科・領域等	総合的な探究の時間
活動学年等	1・2学年
ねらい	○小学生が行うミーティングにファシリテーターとして参加することでリーダーシップの育成を図り、コミュニケーション能力を育む。 ○「世界子どもの日」に行われる子どものためのミーティングを通して、子どもの権利についての理解を深める。 ○地域の課題についての理解を深めるとともに、地域の活性化に貢献する。

【実践内容】

〔志教育の視点〕

富谷の未来について市内の小学生が話し合うミーティングに参加し、ファシリテーターとして話し合いが円滑に進むよう努めることで、他者と適切にコミュニケーションをとる方法を学ぶ。また、富谷市の課題について真剣に向き合う中で地域連携の重要性を知り、地域の中で自分たちが果たすべき役割について自覚する。

〔活動内容〕

- 話し合いが円滑に進むよう、ファシリテーターの役割を果たそう。
 - 各校から集まった小学生たちは、初対面で緊張しており、意見を言いにくいことが想定される。高校生が積極的に意見を促したり、相づちをうちながら話を聞いたりすることでファシリテーターの役割とその必要性を理解する。
 - 小学生の三者三様の意見をまとめる中で、話し合い活動の重要さと複数の意見をまとめることの大切さや難しさを理解する。
- 子どもの権利について理解を深めよう。
 - とみやわくわく子どもミーティングが行われる11月20日が「世界子どもの日」であることを理解し、「子どもの権利条約」についての知識を深める。
 - 「子どもにやさしいまち」を目指している富谷市の取り組みを知り、このミーティングが行われている意義と重要性について理解を深める。
- 地域の課題について理解を深め、解決策を考えよう。
 - 小学生ならではの視点から得られる「富谷市の課題」と自分たちが思う富谷市の課題を比較させながら、富谷市をよりよくするためにはどうしたらよいか考える。

